

# マッチング実践フローチャート

① 相談・アセスメント

！適切な支援につなげるため、病気や性格などの聞き取りを行う。  
例：作業に没頭し疲れてしまうまでやってしまう。  
認知症（中程度）があり、段数などを確認しての作業は難しい

② 計画

※細分化工程表を活用  
！喪失体験をしている高齢者は、できない体験が一つでもあると、他の作業はできていても、「自分にはできない。」と自信を無くしてしまうため、初回～数カ月まではできる作業のみを依頼できるように計画する

③ 実行・モニタリング

※細分化工程表の評価部分を活用  
！できる作業のみを依頼し、できたという成功体験を繰り返していくことで、本人の作業レベルを向上していく。  
！支援者側が作業の把握をしていないと、どの作業が本人の負担になるか気づかないため、作業工程の把握をしておく。編み方、ミシンの使い方などは把握必須。その上で「分からないから教えて欲しい」などのスタンスで接していく  
例：目が見えにくい利用者→編み方は覚えていても編み目が見えず疲れてしまう。  
⇒3～4目ほど編んでもらったら、職員が「やってみたいから教えて欲しい」と言い、交代して、編み目を通して目を整え、また、利用者に戻すを繰り返していく

④ 評価

今まで行えていたことが負担に感じている様子や意欲の低下などの変化がある場合は、生活の困りごとを抱えている場合があるため、担当のケアマネージャーや包括支援センター、家族等に情報共有する